「あ、あの……先生、
言われたとおりにしましたけど……」
「ほんとに疲労が一発で回復する
方法なんてあるんですか？」
「以前お聞きしたときにはちゃんと
休むしかないって……」
（うぉぉ、レイサパンツ……！
冗談のつもりだったけど、
こんなの見せられたら……！）
「……お、おお。そ、そうなんだよ。」
「あれからもう一度調べてみたんだけど、
（性感）マッサージをすると、
なんか色々とスッキリしてよく眠れて
疲労も回復するって」
「う、うーん……？
で、でも、先生の言う通りにしたら今まで
だいたいの問題は解決してきましたから……
お、お願いしますっ！！！」
「あ、あぁ……、任せて」
（うぅ、信頼の目を向けられると心が痛む……
でも……ここまできて、やめられないっ！）

「さ、触るよ……(ごくり)」
「んっ……えっ……、
い、いきなりっ、そんなとこっ……
んんっ！」
「だ、だいじょうぶ、え、えーと、
リンパの流れがなんちゃらで、
ろ、老廃物が溜まってるんだ。
ほ、ほらおしっこだって
ここから出すだろう？
そ、そんな感じだよっ！」
「んあっ、はっ……
そ、そうなんですねっ……！
あっ！」
「ほ、ほら特にここ、
しこりみたいに固くなって……
指の腹でよ～くほぐしてあげないとねっ……」
「あんっ！ あっ、そ、そこっ！
ビリビリしますっ！ あぁっ！」
すりすり

「よ、よし……だいぶほぐれてきて、
老廃物が汁になって出てきたからっ、
今度は直接、すっ、吸い出すねっ！」
（ああっ、レイサマンコ！ ヤバイッ！
チンポ破裂しそうなくらい興奮するっ！）
「ふぁっ！ んあっ！
せ、先生っ！ だ、ダメですっ！
そ、そんな、音たててっ、
す、吸わないでくださいっ！」
（うぅ、先生の舌がアソコを舐め回して……
あっ、あんなエッチな音響いて……
は、恥ずかしいっ！）
ブジュズズズッ

「いっ、いい感じだよ、レイサ……！
どんどん汁が溢れてくるっ！」
「あっあっ、ダ、ダメですっ❤せ、先生、あっ
ダメっ、あ、頭、しびれてっ……な、なんか
くるっ、きちゃいますっ！あっ❤
ふぁっ❤んんんんんっ❤」
（ぷしゃっ）
「うぉっ、レ、レイサ……い、イッたのか？」
ぶじゅっ
じゅるっ
ずるるるッ

「はっ、はぁ、はぁ……」
「あっ、よ、よかったね、レイサ
これでしっかり
老廃物も流れ出たから
家に帰ってゆっくり寝たら
明日はバッチリだよ
じゃっ、そういうことで……
(そそくさ)」
「……先生。待ってください」
「な、なに……?」
「……そんなにお、おちんちんを膨らませて、
どこに行こうと言うんですか?」
「えっ!」
は~…♥
は~…
びしょ♥
びしょ♥

「あの……これって、いわゆるエッチなことですよね？わ、私だって！それくらいのことは知ってますっ！と、友達から、聞きましたからっ！」
「うぅ、レイサ……ごめんっ！」（まさかエッチなことだとわかって私に合わせてくれていたなんて……うぅ、罪悪感で死にそう）
「ほっ、本来ならっ、お、女の子にこんなことしたら、犯罪なんですからねっ！だ、だいたいっ！こんな犯罪まがいのことしなくても……言ってくだされば……（ごにょごにょ）」
「……えっ？　ほ、ホントに？」
「……せ、先生にはお世話になってますしな、なにかお返ししたいとも思ってますしそ、それにそういうのにもちょっと興味はあって……、先生となら、その……いいですよ」
びしょ♥
びしょ♥

「あっ、あのっ……
は、はじめてなのでっ……
や、やさしく、
してくださいね……？」
「……え？　あぁうん……
り、リラックスして
私に身を任せて……（ふらふら）」
（レイサのプニマンに
ぷっくりアナル……！
こんなエロいもの見せられて
優しくしろとか
あ～これ無理ですワ。
こんなの、こんなの……！
むしゃぶりつくすしかないだろうがっ！）
「うぅ、は、恥ずかしいですが……
よっ、よろしくお願いしますっ！
……って先生？　聞いてま……あひっ！」

「うひゃっ！
せ、先生！　そっそっちは
ち、違うと思うんですがっ！」
（う、宇沢アナル！
ちょっと苦みのある
この味と香り……チンコにくるっ！）
「ぷはっ、こ、これは、レイサが少し
緊張で固くなってるから
緊張をほぐしてあげようと思って……」
「ひゃっ、あっ、そ、そうなんですねっ……
も、もう緊張は解けましたから、あひゃっ！
あっ、ダメっ、そんなしつこく……！
ふぁぁっ！　へ、変な気持ちにっ……！」
（お、おしりの穴を舐められてるのにっ、
む、むずむずして、気持ちいい……
こ、こんなのおかしくなっちゃう……）
ペロ♡
ペロ♡

「は~っ❤は~っ❤」
(やっ、やっとおわった……❤)
「ふぅ……レイサのアナル、おいしかったよごちそうさま」
「うぅぅ……」
(お尻で感じちゃうなんて……恥ずかしすぎて頭沸騰しちゃいそう……)
は~!❤
は~!
「いい感じに体もほぐれてオマンコもとろとろだし……そろそろ、いいか?もう、正直我慢の限界っ……!」

「ふー、ふー……（荒い鼻息）」
（ボロン）
「……！　すっ、すごい……
男の人のおちんちんって
そんなになるんですね……！
まるで、エクスカリバー……！」
「ははっ、そ、そんなに
褒められると照れるな……
んっ……（くちゅくちゅ）」
「あんっ♥せ、せんせい……」
「い、いくぞ、レイサ……私の、せ、聖剣を……
レイサの鞘に納めるぞっ……！」
（実際に口にすると恥ずかしいなコレ！）
「はっ、はいっ♥
きてください、先生！」
（どきどき♥）
ドキ♥
ドキ♥
ドキ♥
ドキ♥
ゴリッ
ゴリッ

（ずにゅ～っ）
ずにゅ～っ
「うぉ、レイサの中……
とろとろで……
くっ、やけどしそうに
熱いっ……！」
「ふぁぁ……！
あっ、あれっ……？
思ったより、痛くない……？
あれ、あれっ？」
（初めては痛いってきいてたのに、
私、こんなとこまで、
普通じゃないのかな……）
「ん？ ああ、大丈夫だよ
よく体を動かす子だと
そういうことあるんだって。
レイサくらい動き回ってれば
それが普通だから。安心して」
「あっ、ははっ そうなんですね……
よかったぁ……」
（やっぱり先生は私のこと、よくみて、
わかってくれる……
先生が初めてで、よかった……❤）

「うぅ、レイサのちっちゃいオマンコに私の聖剣が根元までずっぽりハマってるの、興奮しすぎて脳みそが焼き切れそうだ……！くぅ、もう我慢できない……！レ、レイサ、う、動くぞっ！」

「あっ、は、はいっ……！」

「あっ、ふぁ、んっ……❤」

（先生のエクスカリバーが私の奥を突き上げるたびにゾクゾクが湧いてきて……き、気持ちいいっ……❤）

ズチュ

ズッ

ズブッ

「くっ、レイサの中、突き入れるたびにぎゅっぎゅって締め付けてきて……ヤバイ……！　腰が止められないっ！」
「あんっ♥ふぁ♥ああっ♥」
（先生の動きがっどんどん激しくっ……！頭ふわふわしてっち、ちからはいんないっ……♥）
パン
パン
パンッ
パンッ
はっ♥
はっ♥
はッ♥

「ぐぅぅ……ずっと我慢してたところに
極上のレイサマンコ……！
こんなのっ、も、持たないっ！
あぁっ！ 出るっ、精子出るっ！
出すっ！ 膣に出すぞっ、レイサっ！」
「ああんっ♥ひぁぁ♥ふぁ、ふぁい♥
奥にっ♥せんせいのせーしっ♥
いっぱいっ♥くらひゃい♥ふああっ♥」
「レイサっ レイサっ……！
イクっ！ あーイクイク出るっ！
ぐぅぅぅっ!!
ウッ……！」
パン パン
パン パン
はっ♥ はっ♥ はッ♥

ぶびゅるっ！
びゅるるるっ
ああああんっ
「はっ、はっ、はぁ……」
「はっ♥あっ♥せんせいのせーし♥こんなにいっぱい♥」
びゅっ
とぷっ
とぷんッ
「んはっ♥まだ出てっ♥んんんっ♥」

「はー、はぁ……
もっと、じっくり
堪能したかったのに
レイサマンコ気持ち良すぎて
すぐ出ちゃった……
もったいない……」

「はっ❤はぁ❤
すっ、すごかった……ですっ……❤
頭ふわふわしてっ！
目の奥で星がチカチカ
光ってるみたいでしたっ！
エッチって、こんなに
すごいんですねっ……！」

ズッ～…ぬぽっ❤

ぷっ❤ぷっ❤

はっ❤はっ❤はッ❤

（うっ、レイサのロリマンコから
私の精液が垂れて……エロすぎるっ！）

「……あっ、ああっ……そうだね」

「……先生？
あっ、先生のエクスカリバーが
いつのまにか輝きを取り戻して……
ふふっ！　もしかして先生、
また「挑戦」、したいんですか？」
「……このっ、さっきまで
処女だったくせに
いっちょ前に
大人を挑発して……！
……今度は本気でいくからね？」
「望むところですっ！　この宇沢レイサ！
先生が参ったというまで、いくらでもっ！
挑戦をお受けしますよっ❤
にひひっ❤」